令和４年度　　学校努力点基本方針（案）

# 主題　ＩＣＴを活用して主体的に学ぶ子どもの育成

## －児童用タブレットの効果的な活用－

### １　主題設定の理由

#### (1) 昨年度までの成果と課題

本校では、昨年度から「ＩＣＴを活用して主体的に学ぶ子どもの育成」を主題として、努力点研究に取り組んできた。「主体的に学ぶ」とは、子どもが学びの対象に対して興味・関心をもち、見通しをもって意欲的に問題解決に取り組み、自らの学習活動を振り返って達成感や次の学びへの期待感を得る学習の在り方を指している。タブレットを活用した資料提示、考えの共有等を通して、主体的に学ぶ子どもを育てることができると考える。

昨年度は、まず教師が、タブレットを中心としたＩＣＴ機器を、各教科等の指導で効果的に活用できるようにすることに重点を置き、「一斉学習」における活用を中心に研究に取り組んだ。タブレットを積極的に活用した教材の提示の工夫により、子どもの興味・関心を高め、主体的な学びに近づけることができた。

一方、昨年度途中から導入された児童用タブレットについては、まずは使って慣れることを重視し、様々な場面で積極的に活用はされたものの、系統だった研究は十分ではなかった。学習の効果を高めるために、子ども自身が、どのようにタブレットを活用すればいいのかという点は、今後の課題として残った。

#### (2) 課題改善に向けて

昨年度配布されたタブレットは、教師が効果的に使用することによって、１年目にして様々な活用方法が見いだされ、日常の授業に定着した。

一方、児童用タブレットは、まだ試行的な使われ方に留まっている。タブレットを使うことが目的ではなく、学習の効果を高めるための手段となるよう、学習活動の中にどう組み込んでいくべきかを研究していく必要がある。

また、タイピングが苦手な子どもや低学年の子どもなどにとっては、活用が難しい学習場面もある。子どもの実態や学年の発達段階に合わせて、研究の方法を考える必要がある。

以上の理由から、主題２年目である本年度の副題を「児童用タブレットの効果的な活用」と設定し、学校努力点に取り組んでいく。そして、「児童用タブレットが効果的に活用されているか」や、「子どもが主体的に学べているか」を検証していくこととする。

### ２　研究の方法

#### (1) 研究の構想

学校におけるＩＣＴを活用した学習場面は、以下の３つに分けられる。　【別紙参照】

| | |
|---|---|
| Ａ　一斉学習 | ・・・挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して、分かりやすく説明することにより、子どもの興味・関心を高めることが可能となる。 |
| Ｂ　個別最適な学び | ・・デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。 |
| Ｃ　協働的な学び | ・・・タブレットＰＣや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子ども同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。 |

（文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」より）

昨年度は、「Ａ　一斉学習」における活用を中心に研究に取り組んだ。

今年度は、児童用タブレットの効果的な活用を目指すため、「Ｂ　個別学習」「Ｃ　協働学習」における活用が想定される。

#### (2) 研究の流れ

① 学年に応じた「目指す子どもの姿」を設定する

研究で目指す子どもの姿が、具体的にどのような姿であるかを、学年で検討し、設定する。

② 公開授業の事前検討を行う（前期・後期）

公開授業を行うクラスが中心となり、学年全体で単元を選び、授業を考える。

※ 公開授業の１週間前までに、授業の日時を係と教務主任に報告する。

※ 公開授業の２日前までに、指導計画等の資料を作成し、全員に配布する。

③ 実践や公開授業を行う

公開授業の前に、他のクラスでプレ実践を行えると良い。

④ 公開授業の事後検討を行う（前期・後期）

子どもの自己評価と照らし合わせて検討する。

⑤ アンケートを実施する

学年の始まりと、後期実践後にアンケートを実施して、変容や有効性をつかむ。

(3) 授業研究

○ 全員が年間を通して実践するが、学年で２回（前後期で１回ずつ）公開授業を行う。学年で２クラスだけだが、事前検討やプレ実践などを通して、学年全体で授業をつくる。

○ 学年で事前検討を行う（単元・授業の流れや、ＩＣＴを活用する場面、評価の仕方等）。

○ 公開授業は~~できるだけ多くの教職員で見合い、~~事後検討を行うことによって、授業の振り返りや課題の見直しなどを行い、次の実践の修正点とする。

○ 全体授業は、代表者が２学期に行う。~~全員で参観し、~~事前・事後検討会を全体で行う。

○ 授業参観で、保護者に取り組みの様子を見せる（公開授業とは兼ねない）。

(4) 研究のまとめ

１０月の中間報告会では、それぞれの学年の取り組みについて話し合い、前期実践の様子、成果と問題点を交流する。

２月の最終報告会では、子どもの実態、学級・学年での実践の様子、成果と課題などをまとめ、報告する（Ａ４、１ページ）。教師・児童のアンケート結果についても報告する。

また、学年だよりやホームページで、前後期それぞれ１回ずつ、努力点の取り組みについて情報発信を行う。

(5) 研究推進組織

努力点推進委員会は、教務・校務・各学年推進委員で構成し、主に、研究推進の方向性を決めていく。また、部会については、学年部会を編成し、研究を進める。

| | |
|---|---|
| 学年部会 | １年、２年、３年、４年、５年、６年、あすなろ組<br>※ 専科の先生は希望学年に入る。部会は必要に応じて行う。 |

３ 年間計画

| 月・日 | 会議 | 内　　容 |
|---|---|---|
| ４月　１日(金)<br>４月　７日(木)<br>１１日(月)まで<br>４月２１日(木)<br>７月２０日(水) | 職員会議<br>推進委員会<br>努力点部会<br>全体会<br>推進委員会 | ・努力点のねらい、方法、内容、組織等<br>・実践内容についての共通理解、実践計画の立案<br>・各学年における実践の計画<br>・実践計画の発表<br>・１学期の実践のまとめ、中間報告のまとめ方<br>・学年だより、ホームページでの情報発信 |
| 夏休み中<br>１０月　６日(木)<br><br>１０月２０日(木)<br><br>１２月２３日(金) | 努力点部会<br>中間報告会<br>全体会<br>努力点全体授業<br>全体会<br>推進委員会 | ・２学期以降の実践の計画の検討<br>・前期実践の成果と問題点<br>・全体授業事前検討会<br>・全体授業<br>・全体授業事後検討会<br>・実践の成果と問題点、報告会のもち方<br>・学年だより、ホームページでの情報発信 |
| *２月　９日(木)*<br>*２月２０日(月)* | 最終報告会<br>推進委員会 | ・後期実践の成果と問題点、１年のまとめ<br>・来年度の努力点推進 |

【研究構想図】

《実践後の子ども》

ＩＣＴを活用して主体的に学ぶ子ども

ソフト面の充実

デジタル教科書・教材などのコンテンツ、ＩＣＴ機器を扱う上でのルール

子どもがＩＣＴを活用する学習活動　↑　教師がＩＣＴを活用する学習活動

様々な場面での実践

令和４年度
―児童用タブレットの効果的な活用―

**Ｂ　個別学習**

個に応じる学習
調査活動
表現・制作
（家庭学習）

**Ｃ　協働学習**

発表や話し合い
協働での意見整理
協働制作
（学校の壁を越えた学習）

**Ａ　一斉学習**

教員による教材の提示

令和３年度
―タブレットの効果的な活用を通して―

ハード面の整備

一人一台端末、高速通信ネットワーク、プロジェクターなど教室のＩＣＴ環境

《実践前の子ども》

△　ＩＣＴを活用することができない。

△　学習への取り組みが受動的。

○　めあてや振り返りを意識したり、仲間と対話をしたりして、学びを深められるようになってきた。